

## 10: 悪性リンパ腫(ML)【成人】

### 1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 近藤 英生	川崎医科大学附属病院	血液内科
吾郷 浩厚	島根県立中央病院	血液腫瘍科
伊豆津 宏二	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科
小川 啓恭	兵庫医科大学病院	血液内科
尾関 和貴	愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院	血液・腫瘍内科
賀古 真一	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
加藤 光次	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
加藤 春美	愛知県がんセンター	血液・細胞療法部
金 成元	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
酒井 リカ	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	血液・腫瘍内科
鈴木 律朗	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
鈴木 淳司	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
田地 浩史	愛知県がんセンター	血液・細胞療法部
名和 由一郎	愛媛県立中央病院	血液内科
水田 秀一	金沢医科大学病院	血液・リウマチ膠原病科
森島 聡子	琉球大学医学部附属病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)
森 毅彦	慶應義塾大学医学部	血液内科
矢野 真吾	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
石田 文宏	信州大学医学部	保健学科 病因・病態検査学
朝倉 義崇	日本赤十字社 沖縄赤十字病院	血液内科
池田 宇次	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
坂本 佳奈	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
鈴木 達也	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科
千原 大	National Institute of Health	
青木 一成	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学
今田 和典	大阪赤十字病院	血液内科
高橋 勉	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
三橋 健次郎	さいたま赤十字病院	血液内科
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
青木 智広	名古屋大学大学院医学系研究科 分子総合医学専攻 病態内科学講座	血液・腫瘍内科学
神山 祐太郎	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
白鳥 聡一	北海道大学病院	血液内科
山崎 聡	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	血液内科

飯田 浩充	独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター	細胞療法科
岡田 隆宏	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
河田 岳人	京都大学医学部附属病院	血液内科
式 郁恵	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
高橋 寛行	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	血液・腫瘍内科
田村 志宣	和歌山県立医科大学附属病院	血液内科
久納 俊祐	名古屋大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科
関口 康宣	順天堂大学医学部附属浦安病院	血液内科
橋本 大吾	北海道大学病院	血液内科
平本 展大	神戸市立医療センター中央市民病院	血液内科
藤本 亜弓	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
高松 博幸	金沢大学医薬保健研究域医学系	血液内科
水野 昌平	愛知医科大学病院	血液内科
梶 大介	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
櫻井 政寿	慶應義塾大学医学部	血液内科
清水 里紗	川崎医科大学附属病院	血液内科
橋田 里妙	国家公務員共済組合連合会立川病院	血液内科
宮崎 香奈	三重大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科学
山本 豪	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
横山 明弘	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	血液内科
新田 英昭	順天堂大学医学部附属順天堂医院	血液内科
吉嗣 加奈子	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
渡邊 瑞希	京都大学医学部附属病院	血液内科
海老原 理穂	東京女子医科大学病院	血液内科
大引 真理恵	名古屋第一赤十字病院	血液内科
金谷 穰	オスロ大学病院がん研究所	腫瘍免疫分野
亀田 和明	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
栗山 幸大	京都第一赤十字病院	血液内科
酒徳 一希	大阪市立大学医学部附属病院	血液内科・造血細胞移植科
篠原 明仁	東京女子医科大学病院	血液内科
島津 裕	日本赤十字社和歌山医療センター	血液内科
戸田 有亮	京都大学医学部附属病院	血液内科
林 清人	川崎医科大学附属病院	血液内科
永田 啓人	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科

## 2. 会議開催記録(2019年1月-12月)

日時	場所	会議内容
3月8日	大阪	既に提案された研究の進捗状況、今後の対策、新規研究テーマの提案、進捗管理対象の対応状況について討論した。

7月13日	名古屋	既に提案された研究の進捗状況、今後の対策、新規研究テーマの提案、進捗管理対象の対応状況について討論した。
-------	-----	--

### 3. メーリングリストによる意見交換（メーリングリスト開設から 2019年12月末時点まで）

（2017 ）回

### 4. WGの今後の活動方針・抱負など

複数の研究が進捗管理対象となっていたが、今年4つが論文化に至り、2つが投稿済となった。近年、Full paper として投稿するものの Letter への変更を強いられるケースが増えており、何らかの対策が必要である。また、本WGは比較的多くのメンバーが所属しており、各研究の分担研究者は埋まった形で申請することが多かったが、研究進行、論文化への過程の中で貢献度の高いメンバーがいても著者に入れにくい状況であったため、今年度より新しい研究の申請時には分担研究者を埋めることなく申請し、論文化の時点での貢献度を加味して申請書を変更する方針へと転換した。また、議論を活性化し各メンバーが意見しやすくすることを目的に、メーリングリスト以外に slack での議論を導入した。まだ起動にのっているとは言えないものの、slack での議論より新たな研究申請、学会発表に進んだものも出てきており、今後も継続していく予定である。